



しかはま自然観察会

のらえもん

2025 年度

No. 3

2025.05.24

『 人も 自然も みんな友だち 』

第3回活動

手長エビ釣り

初めての手長エビ釣り。

どんなふうに釣るのか、とても興味がありました。

最初の1匹きは、春日さんがゲット！

15cmもある大物でした。

たくさんは釣れなかったけど、

釣りという雰囲気をみんなで楽しみました。

1, 日 時：2025年5月24日（土）14:00～16:00

2, 天 気：曇り 気温20, 6℃

水温21, 5℃

3, 場 所：都市農業公園の西 新芝川（水門の近く）

4, 集 合：現地集合

5, 参加者：総数15

内訳 大人 4

高校 3

小学 3

幼児 1

スタッフ 4

6, 活動の様子

指導者：山岸拓未くんのお父さん

仕掛け：手長えび用針 道糸2号

竿 : 3mぐらい

え さ：赤虫

釣 果：手長エビ 3 （1匹きは全長15センチ）

小さなスズキの子ども 1

30cmぐらいのニゴイ 1 拓未くんのお兄さんが釣りました。

臭くて、食べられないそうです。

○ 2時過ぎ、新芝川に来てみると、もう3家族が釣りを楽しんでいました。

お父さんといっしょの2人の兄弟がいました。

「つれましたか」「いや、ぜんぜん」

そんな会話をしながら、のらえもんも準備にとりかかりました。

釣り師の山岸さんは、仕掛けを作って送り出すのに大忙しです。

三浦さん・田島さん・周さん・山本さん、そして春日さんが竿を川面に出しました。

流れはほとんどありません。曇り空の下、静寂が走ります。すると、春日さんが「釣れた！引っかかっていると思ったら、釣れたヨ！」と、大きな手長エビを見せてくれました。「これは大きい！」と、釣り師の山岸さんもビックリ！回りからも「釣れた」

「釣れた」という声が響いてきました。「上げたら、釣れていた」と、うれしそうな声が聞こえてきます。

わずか3匹の手長エビでしたが、家族で釣りに挑戦している光景は、美しかった！

7, ふり返りの感想

○ 暑くなくて、釣り日和でした。

蓮士は待てず、網で遊んでいました。

ゆっくりのんびりできて、良かったです。

来年は、釣りたいです。

手長エビ ぜんぜん釣れず 悲しいな

谷在家保育園年少

母

○ いかいもつれなかって

かなしいです。

鹿浜五色桜小2年

○ てながえびがとれて うれしかった。

てながえび はじめてつって うれしいな

栗島小2年

○ てながえびをつりたかったけど、つれなかったのがくやしかった。

こんど、また、このようなもよおしがあつたらがんばる。

てながえび つれなかったよ くやしいよ

扇小5年

○ 今回、初めて参加させていただきました。

釣りは、釣れるかどうか、竿を上げるげる時のドキドキが興味をひきつけるのでしょうね。

皆様に温かく迎えて頂き、今後の体験が益々楽しみになりました。

子どもと一緒に自然の中で遊び学べることに、ワクワクしています。

川のゴミ 生き物たちに ごめんなさい

母

○ あんまりつれなかったな～。

つれたけど 1匹しかむり だったんだ

皿沼小5年

テナガエビは、日本各地の河川や湖沼、汽水域に生息する淡水性のエビで、名前の通り、長いハサミ（前脚）が特徴です。食用としても人気が高く、特に初夏から夏にかけてのシーズンには、釣りのターゲットとして親しまれています。私たちにとって身近な荒川の流域では都市農業公園の水門近くや岩淵水門の辺りでたくさんの釣り人が楽しんでいる釣りです。

1. テナガエビの生態と釣りの時期

生息環境：流れの緩やかな河川の護岸や石の間に多く生息します。夜行性で、昼間は物陰に隠れています。

シーズン：5月～9月頃が最盛期。産卵期前で活発に活動します。

時間帯：日中も釣れますが、夕方から夜間にかけて活性が上がります。

2. 必要な道具

釣竿：のべ竿（1.5～2.4m 程度）。

感度が良い軟調竿だとアタリが分かりやすいです。

仕掛け：小型のウキ釣りやミャク釣り。

道糸は0.8～1号程度、ハリスは0.4～0.6号。

針：テナガエビ専用針または小型のタナゴ針。

オモリ：ガン玉や中通しオモリ。

ウキを使う場合は水面下に潜らせませす。

エサ：赤虫が最もポピュラー。

活性の高いときはカニカマでも代用可能。

その他：ピンセット（エビの針外し用）

バケツやエアポンプ（釣ったエビの保管用）



3. 釣り方の手順

①護岸の隙間、石の間、水草の根元、杭や障害物の周囲など、エビが隠れられる場所を狙います。

②エサの付け方は赤虫を1～2匹針に刺します。針先は赤虫から少し出すようにします。

③アタリはウキや竿先に「モゾモゾ」とした小さな動きが出ます。アタリがなくても仕掛けを投入してから90秒ぐらいで合わせていきましょう。テナガエビはエサをつまむように食べるため、アタリはととても分かりにくいです。

④取り込みは焦らずゆっくり竿を上げます。強く引き抜くとハサミが取れてしまうことがあるため注意が必要です。

4. 釣った後の処理と楽しみ方

持ち帰り方法：活かしバケツやクーラーボックスで持ち帰りましょう。水温が上がりすぎないように注意。調理法としては素揚げ、塩焼き、唐揚げ、かき揚げなど。香ばしい風味が特徴で、ビールのおつまみにも最適です。

5. おわりに

今回のテナガエビ釣りは、時期が早かったせいか合計3匹の釣果でしたが、スズキの稚魚やニゴイといった魚も釣れました。釣ったテナガエビは山口さんのお店で塩焼きにしてもらって美味しく頂きました。これからも季節の風物詩として楽しんでいきたい釣りのひとつですね。

ウナギ釣りは、日本の河川や湖沼で古くから親しまれている釣りのひとつです。ウナギは夜行性で、主に夜間に活動するため、釣りも夕方から夜にかけて行われることが多いです。

1. 釣行概要

釣行日：2024年7月中旬

時間帯：17:30～21:00

釣り場：荒川中流域（足立区・都市農業公園脇の新芝川合流地点）

天候・気温：晴れ、気温約25℃

2. 釣り方と仕掛け

竿：3.6mの投げ竿

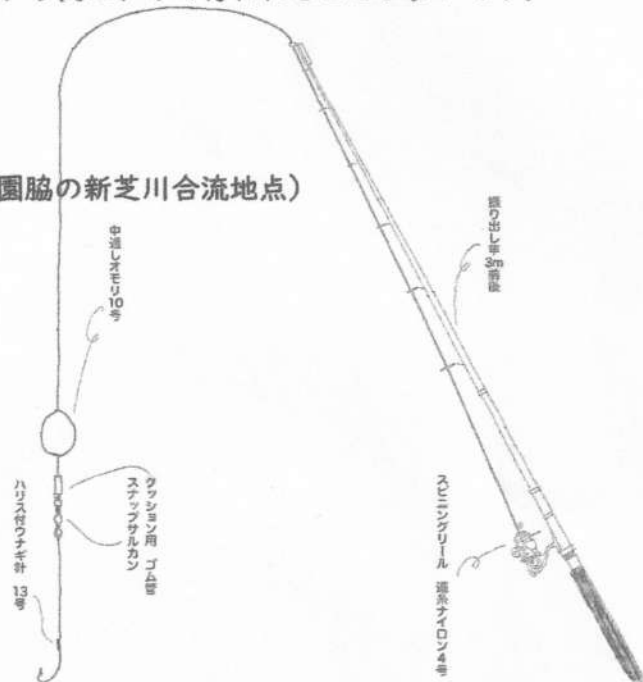
リール：スピニングリール 3000番

道糸：ナイロン4号

オモリ：中通しオモリ 10号

針：ウナギ専用針 13号（ハリス付）

餌：ミミズ（自分で採集したもの）



3. 釣り方とポイント選定

荒川のウナギ釣りでは、ぶっ込み釣りが一般的です。仕掛けを投入し、竿を置いてアタリを待ちます。ウナギは夜行性のため、日没後の時間帯が狙い目です。特に橋脚や水門など、流れに変化のある場所がポイントとされています。都市農業公園脇の新芝川水門辺りでは、川の真ん中あたりに仕掛けを投入すると根掛かりも少なく快適に釣りができます。

4. 釣果と感想

この日は活性が高く釣果は、60cm前後のウナギを1匹。40cm前後のウナギを2匹。アタリは日没から20:00頃にありました。ウナギのアタリは分かりやすく竿先が大きくしなります。竿先が小刻みに揺れているときはまだ餌を咥えているときに針掛かりしていないので、慌てて竿を合わせず確実に針掛かりするまで待ちましょう。釣り上げたウナギは、水道水で洗ったあと氷締めをしてから目打ちをしてから捌きます。その後は蒲焼にすると野趣溢れる味でとても美味しいです。

5. 注意点とアドバイス

泥抜き：荒川のウナギは泥臭さがあるため、食用とする場合は数日間の泥抜きが必要とする記事を多く見かけますが、捌いたあとのヌメリを熱湯でゼリー状にし、ブラシなどでしっかり落とすと臭みはかなり軽減されます。ちなみに私は泥抜きをしないで、この方法で調理しています。

安全対策：夜間の釣行では、ライフジャケットの着用やヘッドライトの使用など、安全対策を万全にしましょう。

6. さいごに

夜の荒川は昼間と違う生物が顔を出してくれます。ウナギが釣れるのも嬉しいですが、過去の釣行でビックリしたのは70cmぐらいニホンナマズが釣れたときです。あまりにも重くて引き上げられず、護岸まで竿で誘導して取り込みました。また本来は海水魚であるクロダイが掛かったこともあります。これからも安全に注意してウナギ釣りを楽しんでいきたいですね。